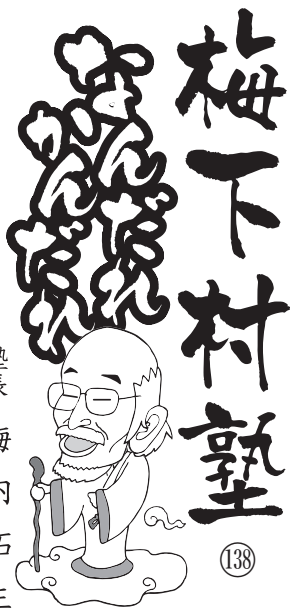


「森と水と命の惑星」国際会議

～地域と世界の心と魂を詠む～



塾長 梅内 拓生

詐欺の姿々クラシック音楽界と宗教界、聴覚を失った天才作曲家、現代のベートーベンの出現というニュースで世間は騒いでいた。後にこれは詐欺師の仕掛けたものであるとのニュースで世間は騒いでいる。平成7年にはオウム真理教による地下鉄サリン事件が発生して、世間をかく乱した。これは宗教的洗脳による一つの詐欺事件であるとの見方もある。

詐欺の根性は人間の煩惱の奥深くに潜んでおり、この煩惱といかにつき合うかが人間の歴史に突き付けられている。日本のマスコミの態度にも詐欺と共通するものを感じる。公共放送としての責任を感じていないことである。現代の瞬時に世界

を駆け巡るコンピュータ時代は情報に「そよぎなびく葦」であるといえる。

17世紀のフランスの哲学者で近代的物理学の先駆者であり、思想家、数学者、キリスト教神学者のパスカルは「人間は考える葦である」という言葉を残している。人間とは「生きながら考え、考えながら生きる」ものと受け取るとぴったりと腑に落ちるものがある。問題はそこに紛れ込んでくる詐欺の根性である。

ドイツの古典のゲーテのファウストにも、日本の鎌倉時代の僧法然の草の根の人々への「念と信」の短い言葉「南無阿弥陀仏(なむあみだぶつ)」にも詐欺の煩惱を乗り越える知恵が秘められている。

る。紀元前5世紀前後にはギリシャを含む地中海、中東アジア、インド、中国と地球文明が誕生している。インドで生まれた仏教は中国を経て仏教や儒教として日本に伝えられた。

儒教の教えに「父子に親あり、君臣に義あり、夫婦に別あり、長幼に序あり、朋友に信あり」と親、義、別、序、信について述べている。これら歴史に耐え、いい伝えられている言葉には詐欺の煩惱と姿を乗り越え、魂に響いてくるものがある。

(ルールの設定、解釈、判定)
ソチオリンピックのニュースが連日報道されている。競技の勝ち負けはルールに従って判定されるのが建前である。過去数十年以上日本はオリンピック競技連盟が決めたルールを守り、その中で勝ちを蓄積してきた。問題は日本が勝ちを積み上げてくると欧米諸国が、自国に有利で日本に不利なルールを設定してくることがある。

日本は臍をかむような苦い経験をしてきたが、ルール設定に口出しをして、ルールの設定に影響を及ぼす努力をどれだけしてきたのだろうか。国内オリンピック委員会はこのことをどれだけ意識して行動してきたのだろうか。

オリンピック競技場の実態、環境条件、運営の状況、選手宿舍などの情報収集と分析とフィードバック、競技委員会との外交交渉、これらが有効に機能しているのか否かをチェックするシステムの構築、マスコミも、国内オリンピック委員会からの情報開示が無いのが現状である。これは第2次世界大戦敗戦のショックの平和ボケ外交がいまだに脈々と続いていることに他ならない。

国内オリンピック組織委員会とチーム団は、外交交渉、技術コーチ、情報収集と分析、情報発信のチーム構成が必要である。このような機能を果たせるようなチーム構成を行わねばならないと思

う。
役に立たない名譽職の方々はチーム構成には遠慮してもらおうべきである。さもなければ世界の厳しいルール設定と解釈、判定における発信の責任を果たすことができなくなる。選手たちのせつかくの努力にこたえるべき道は閉ざされてしまつた。「長いものには巻かれろ」の態度とはきつぱりと縁を切らなければならぬ。

(東海新報記事から)
2月8日第1面の「世迷言」はゴーストライター騒動についてのコメントしている。このコメントで注意すべきことは「伝」佐村河内作曲交響曲第1番はじめいくつかの作品は専門家からも激賞されCDもチャートに乗るほどだったというから、曲そのものの音楽性は高かったのだから」という点である。

詐欺師の設定した劇的世界をこの音楽から消し去ることは極めて難しいと思うのだが、いかがなものか？